

平成30年度病害虫発生予察情報

特殊報第2号

平成30年7月18日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 和名：トルコギキョウベと病（仮称）
学名：*Peronospora chlorae* de Bary

1 経緯

平成30年5月に浜通りの施設栽培トルコギキョウにおいて、株の黄化と枯死症状が確認された。6月5日に病害虫防除所で現地を調査したところ、葉の黄化と葉の裏側に灰白色で霜状の菌叢を形成する等の症状が確認された。葉上の菌叢をかき取り形態観察を行った結果、べと病菌に特徴的な樹状の分生子柄を確認した。そこで農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、日本では未記録の *Peronospora chlorae* によるトルコギキョウベと病（仮称）であることが判明した。

2 病徴

地際付近の下位葉が黄化し、葉の裏側に灰白色で霜状の菌叢が形成され、重症化すると枯死する(写真1、2、3)。

3 伝染方法

風雨により分生孢子が飛散することで広がる。

4 宿主植物

トルコギキョウの他、海外では同じリンドウ科の *Blackstonia* 属、*Erythraea* 属、*Centaureum pulchellum* (シマセンブリ属の1種) を宿主とする報告がある。なお、今のところリンドウ (*Gentiana* sp.) を宿主とする報告はない。

5 病原菌の特徴

分生子柄は、無色、樹状で主軸からほぼ鋭角に分岐し、先端に分生孢子を形成する。分生孢子は無色、楕円形で乳頭突起はなく、大きさは平均 $21.3 \times 14.6 \mu\text{m}$ (写真4、5)。

6 防除対策

本病に対する登録薬剤はないため、以下の対策を実施する。

- (1) 多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の湿度を下げるため換気を十分に行う。
- (2) 過度な施肥を避ける。
- (3) 発病が認められた場合、発病株を抜き取りほ場外に持ち出し、土中に埋設する等適切に処分する。



写真1：罹病株(手前)と健全株(奥)



写真2：葉裏の症状



写真3：葉裏に形成された菌叢(矢印部)



写真4：葉上に形成された分生子柄及び分生孢子
※写真は横浜植物防疫所より提供

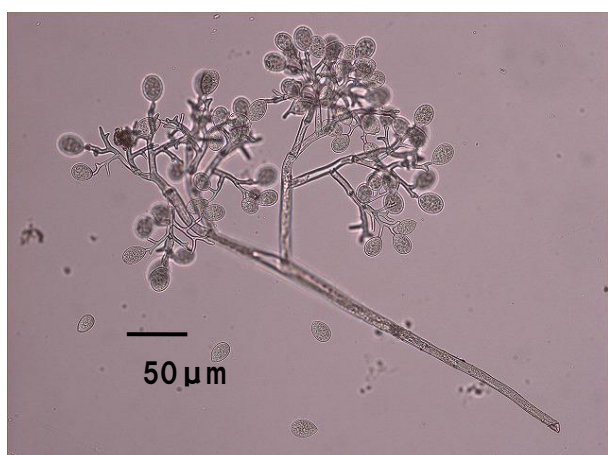


写真5：分生子柄及び分生孢子
※写真は横浜植物防疫所より提供

病虫害発生予察情報ホームページにも掲載されています。 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>
 問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）
 TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp